

事例5-5

取組名	町会役員の負担軽減等に向けた取り組み		
町会名	寿田川町会	町会 データ	・人口／663人 ・世帯数／236世帯 ・高齢化率／15.99% ・町会加入数／227世帯 ・隣組数／26
取組概要	町会業務のデジタル化を推進するにあたり、「町会デジタル化委員会」を設置し、委員も公募した。検討にあたっては、様々な観点から分析を勧めている。		

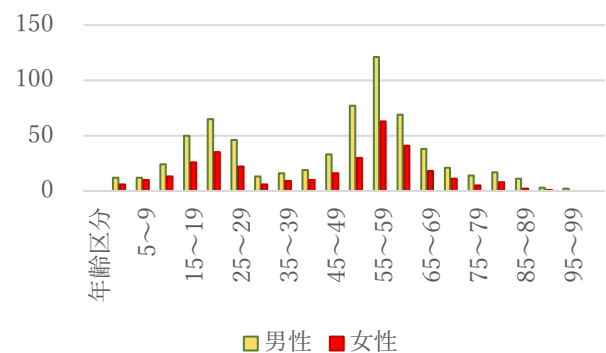
背景・課題

- ・ 寿田川町会は、宅地開発により平成12年に発足した新しい町会。分譲地の抽選で入ってきた当時の30代現在が現在は50代になり、その子どもの世代が同居している世帯が多い。年齢階層別人口（右記グラフ）を見ても50代と10代後半から20代前半にピークがあり、その他は少ない構成になっている。
- ・ 町会長の選出は、立候補がない場合に各常会から候補者を出す。候補者が話し合い、調整できない場合はくじ引きで決める。公民館長などは常会の持ち回りになっている。
- ・ 最近では役員ができない、役が回ってきたから町会を辞める、と言う人も出てきている。
- ・ 担い手となる人材の発掘や育成に関しては、仕組みとしてはなく、情報を集めている段階

経過・取組内容

- ・ 町会業務のデジタル化に関しては、「町会デジタル委員会」を発足させ、会計や副町会長にも入ってもらって、いろんな意見を言ってもらっている。課題を議論したり、町会としての方向性を出したりしている最中。
- ・ 町会長の提案で委員を募集したところ、一般の住民から3人が参加に手を挙げた。仕事でホームページを作成しているという20代の人も参加している。
- ・ 委員会の中では、町会の抱える現在の課題を洗い出し、分類したうえで、それぞれの対応策について、デジタル化を進めることで解決できる事項を拾い、解決方法に見合うソフトを探す作業と、課題を踏まえてのツールにおける機能の洗い出し作業を行っている。機能としては

寿田川町会年齢階層別人口 R8.1.1現在



- 大きく分けて①迅速性はなく町民からのアクセスが主体のもの、②迅速性が必要でプッシュ通信が必要なものと整理して検討をし、これらを踏まえたうえで、各ソフトがこの条件に対応するかどうかの検討を行っている。
- ・ 先進町会の一つである北小松にも行って話を聞いてきた。
- ・ 「Jichi Navi」は町会として実施したいことと合致しているが、個別の設定をしないといけないなどの「面倒くささ」はある。

成果・課題

- ・ 継続的に委員会で検討しながら、令和8年度は実際に作り込むフェーズに入る。20人ぐらいで試行できれば良いと考えている。
- ・ 持続可能にするには、運営する側の担い手を作る必要と、使ってもらう人を増やす必要がある。

【ポイント】手上げで委員を募集したうえで町会デジタル委員会を組織し、町会が抱える課題を様々な観点からを検討し、それに対応するアプリソフトを検討している点

▼町会の課題の分類とツールの条件分析

大分類	中分類	条件	詳細条件
情報伝達・共有の課題	一斉通知機能	プッシュ通知に対応していること。緊急度に応じてアラーム機能があること。全会員への通知機能があること。配信エリアを常会・班・役員単位などで指定できること。	プッシュ機能、アラーム機能、全会員への通知、配信エリアの指定
	グループ別連絡機能	グループ分け（常会、班、役員など）ができること。役員間、または少人数グループでの個別連絡機能があること。	グループ分け、個別連絡機能
	情報の一元管理	オンライン掲示板や共有フォルダで、規約、議事録、活動報告などを一元管理できること。投稿者と閲覧者でアクセス権限を分けられること。規約のバージョン管理、日付管理ができること。スマートフォン、PCなど複数端末からアクセスできること。アクセス履歴がわかること。	一元管理、アクセス制限、バージョン・日付管理、複数端末からのアクセス、アクセス履歴
過去データ・記録の蓄積不足	文書管理・アーカイブ機能	規約、議事録、各種フォーマットなどをデジタルで保管できること。フォルダ分けやファイル名にルールを設けて情報整理ができること。	デジタル保管、情報整理機能
	検索機能	過去のデータや資料をキーワードで簡単に検索できること。	検索機能
組織運営・意思決定の課題	会議・決裁の効率化機能	オンライン会議ツール（Zoomなど）を活用した情報共有と意思決定の仕組みがあること。	情報共有機能、意思決定の機能
災害時の対応・防災体制の課題	迅速な安否確認機能	600〜700人規模の安否確認に対応できる一斉通知機能があること。安否連絡（無事、被害ありなど）機能があること。安否情報を自動で集計し、エクセル等と連携できること。安否確認と同時に現在の居場所がわかる機能があること。要支援者を自動で洗い出せる機能があること。	安否連絡・確認機能、情報の自動集計・洗い出し機能、現在地確認機能
	緊急情報伝達機能	避難指示や物資支給情報を一斉にプッシュ通知できること。災害対策本部役員間の個別連絡機能があること。	避難指示・物資情報を通知機能、役員間の個別連絡機能
	防災体制の整備	避難判断のルールや、災害時の役員間連絡手段が明確に定められていること。デジタルとアナログ（声かけ）を併用できる体制であること。情報を収集するだけでなく、目的（次の行動）に応じて整理・活用できる仕組みがあること。情報収集の単位を小さくし、自動で仕分けできる機能があること。	明確なルール、デジタル・アナログの併用、情報を活用し自動仕分け機能
ツールの導入・運用条件	デジタルとアナログの並行活用	デジタルで作成した図表などを紙に出力できる機能があること。オンラインとオフラインを組み合わせたハイブリッドなイベント運営を支援できること。	紙への出力
	既存アプリの活用	LINE、Zoom、Googleサービスなど既存のアプリを活用できること。	既存アプリの活用
	コスト・セキュリティ	開発費、維持費が許容範囲であること。個人情報や決済情報が安全に取り扱えるセキュリティ対策が講じられていること。	費用が許容内、セキュリティ対策
	操作性・メンテナンス性	シンプルで直感的に操作できる見た目、操作画面、使い心地であること。文字サイズ変更など高齢者でも見やすい機能があること。メンテナンスが容易であること。	高齢者への配慮、メンテナンスの容易さ
その他の課題	会員間のギャップ	紙出力機能や、シンプルでわかりやすい見た目、操作画面、使い心地であること。オンライン・オフライン併用イベント機能があること。	イベント機能
	予算・費用管理	低コスト・無料プランがあり、予算内で利用できること。	
環境整備	お悔やみ連絡	情報を迅速かつ確実に送る運用ルールを策定し、既存の一斉通知機能などで対応できること。	明確なルール
	拠点整備	拠点の整備をし、緊急時に必要な情報が送れる状態を整えること。	拠点整備
環境整備	アカウント作成	個人のアカウントに紐づけることと担当者が変更したときに変更しなおすのが手間であるため町会用のアカウントを作成すること。その際に個人のアカウントに関しては権限を付与して個人のアカウントからも情報発信ができるのが望ましい。	町内アカウント作成、権限付与を行う機能

課題を踏まえてツールにおける機能、条件の洗い出し 20250823

*大きく分けて①迅速性はあまり必要がなく会員からのアクセスが主体のもの②迅速性が必要でプッシュ通知が基本のものの2種類となる

町会	町会→会員	町会の活動が会員に伝わっていない 役員会の中で情報が止まっていて町会全体に届いていない 規約など情報が一元管理されていない。会員が見ることができない 議事録など過去の情報がみられない。共有できない。 各自の担当分野だけでなく他の分野の情報も共有できるとよい	迅速性は必要ない 会員からのアクセスが基本	スマートフォン、PCでアクセスできる 投稿者権限、会員アクセス権限 アクセス履歴がわかることよい 規約のバージョン管理、日付管理ができるとよい	見やすさ、わかりやすさ 投稿変更の柔軟性、容易なこと メンテナンスが容易なこと 開発費、維持費が許容範囲
		不審者情報、イベントなどの告知 災害時も平常時も迅速に情報を伝える手段が不足している 町会からの連絡回覧板だと時間がかかる	迅速性必要 プッシュ通知が基本	プッシュ通知 グループ分け及び配信エリアの指定ができる（常会単位、班単位、役員単位他） 急ぎの物金会員通知、新着情報ありのアラーム機能	
	会員⇄町会	総会議案採決に手間がかかる。 総会の集計に時間と手間がかかる。		投票機能、投票者権限、投票者（アクセス）権限投票機能、集計機能 集計機能（エクセルとの連携でもよい）	
		会員から役員への意見などの取り上げ	会員からのアクセスが基本	個別投稿機能（個人⇄役員あるいはグループ）投稿者履歴がわかる	
防災	会員⇄町会	災害時安否確認をする常会長が町内にいるとは限らない 町会内全体の安否確認に時間がかかる	迅速性必要 プッシュ通知が基本	安否確認一斉通知、アラーム 安否連絡機能（600〜700人規模）あるいは世帯単位250世帯規模 単独で集計、あるいはエクセルと連動でき安否集計集計、要支援者洗い出し 安否確認とあわせて現在の居場所がわかることよい	
		町会→会員		投稿者権限	
	町会→役員	避難指示や支給物資等の連絡をどう行うか 災害対策本役員どうしの連絡手段をどうするか		個別連絡機能があることよい（グループ分けができる）	

その他	何が必要かを把握し、情報を利用してできる形に整理する必要がある 安否確認の責任者がいない場合町会としてどう動くか方針が定まってい 避難判断のルールが不足しており、いつ避難するか、避難場所がひらくのはいつかがなどが明確でない 災害時に現場で何位対応できる状態が整っておらず規約だけでは限界がある 災害時の役員間の連絡手段も明確に定められていない 避難指示や支給物資の伝達方法も確立されていない デジタルとアナログ（声かけ）の手段は平行して活用する必要がある 町会と防災は別の枠組みとしてとらえそれぞれの役割や体制を明確にすることが重要 既存のアプリ等を活用して対応できるようにするのが望ましい 情報は収集だけでなく目的に応じて適切に振り分け実態に活用できる形に整理しておくことが重要 （安否情報を拾って次の行動につなげる工夫が必要） 情報収集の単位は小さい方がよい 常会長は常会長の部分に、班長は班長の部分に仕分けが自動でできる お悔やみについて情報を送る方法が定まってい
-----	---

▲町会の課題を踏まえたツールの機能・条件の分類と条件の分析

大分類	小分類機能	デジ町/ぼうさいLINE	MY自治会	結ネット	いちのいち	yumicom
情報伝達・共有	PUSH通知、全会員通知	○	○	○	○	○
	緊急度に応じたアラーム機能	○（ぼうさいLINE）	×	×	×	△
	配信エリア指定（班・役員単位）	△（グループ設定に依存）	—	—	—	—
グループ連絡	グループ分け	○	○	○	○	○
	個別連絡	○	○	○	○	○
	情報の一元管理	○（情報整理）	○	○	○	○
	規約、議事録の一元管理	×	×	×	×	—
	アクセス権限（投稿者/閲覧者）	×	×	×	×	—
	規約のバージョン・日付管理	×	×	×	×	—
	アクセス履歴がわかる	×	×	×	×	○（読了管理機能）
	複数端末からのアクセス	○	○	—	○	○
申請・カレンダー	公民館使用申請（時間単位）	×	×	×	×	×
	カレンダーへ反映	—	—	—	—	—
	承認機能	—	—	—	—	—
過去データ・記録の蓄積不足	文書管理・アーカイブ機能	×	—	—	—	—
	情報整理（フォルダ分け等）	×	—	—	—	—
	検索機能	○	—	—	—	—
組織運営・意思決定の課題	意思決定の機能	○	○	△	×	△
	アンケート機能	○	×	△	—	△
	600人規模安否確認	○	○	○	○	○（災害モード）
安否確認・防災	安否情報自動集計	○	×	×	△	△
	災害時における現在地確認機能	×	×	×	×	×
	要支援者自動洗い出し	×	×	×	×	△（高齢者みまもり機能）
	役員間個別連絡機能	○	○	○	○	○
	情報を目的に応じて活用/自動仕分け	△	—	—	—	—
運用条件	紙への出力機能	×	×	×	×	×
	既存アプリの活用	○（LINE基盤）	×	×	×	×
	低コスト・無料プラン	△	×	×	×	×
	高齢者への配慮	○	○	○	△	△
	イベント支援機能	△	△	○	×	×
	メンテナンスの容易性	○	○	○	△	△
	権限付与を行う機能	—	—	—	—	—
	○=対応、×=不可、△=別添対応（外部連携や条件付きで可能な場合）、—情報不足					
	明確なルール、デジタル・アナログの併用、拠点整備、町内アカウント作成、個人の負担にならない配慮この条件に関しては今回の比較表の趣旨とはずれるためここに記載する					

▲ツールの条件に対する各ソフトの対応状況の分析一覧（一部抜粋）